

永訣

根来 滯子

私は2019年末に、毎年賀状をいただいている友人知人に、賀状のかわりに、次のような挨拶を送った。

長女エリ・ロスは12月3日、55歳の生涯を閉じました。

ステイブ・ロスと結婚をしてカリフォルニア、サンノゼに住んで21年、ビアンとアンジェラの二人の子供に恵まれ幸せに暮らしていましたが、7年前に発病し、懸命な治療も効無く、力及びまませんでした。毎週スカイプで話していましたが、最後まで弱音を吐くことなく生きようとする意志を持ち続けたことが救いです。これからは大学生と高校生の孫たちの成長を楽しみにしたいと思います

どうぞよいお年をお迎えくださいますように。



ヒュネルホーム

人が死ぬということは、その人がどこにもいなくなるということだ。昨日まで、さっきまで話していたのにどこへいったの

人が死ぬということは、もう決して会えないということだ。昨日まで、さっきまで話していたのにどこへいったの
人が死ぬということは話しかけても答えはないということだ。何度も、何度も呼びかけても。人が死ぬということは、残されたひとを絶望させ、慟哭させるということだ

決して消えることのない悲しみを与えるということなのか

人が死ぬということは、千の風になって私のそばを吹き渡ることなのか

人が死ぬということは、夜空の星の一つになって私に輝き続けることなのか

私は今日、片瀬江の島の海に行つて水平線に沈む夕日を眺めた。真つ青な空はオレンジ色に染まり、何年か前、カリフォルニアで眺めた空と同じだった。空も海も世界を繋ぐ。

この海の果てにエリはいる。「ママ、そんなに悲しくないで」と笑っている。「だってあなたは私のかけがえない長女なのだから、そのあなたを失ったのもの」私はまたもあふれる滂沱の涙を流し続ける、12月の海は穏やかに砂場を洗い、犬をつれた人たちが波とたわむれている。あなたとの答えない語りかけを繰り返す。

「あなたのお別れのセレモニーに行けなくてごめんね、私はもう高齢でサンフランシスコまでの10時間あまりのフライトに耐えられなくて断念したの」、でも東京から奈良が行ってくれた。あなた達姉妹はとても仲良

しでいつもラインで連絡をとりあっていた。わたしだって毎週スカイプであなたと話していたし、あの時その後には早朝の電話であなたの訃報を知るなんて。あなたの病状が思わしくないことを、もう回復することはないだろうと覚悟はしていたけれど、衝撃的な悲しみで受話器を握つたままその場に座り込んだ。私はその時から、死ぬまで癒えることのない傷を負つた。私の人生に決してあつてはほしくなかった「わが子を失つた不幸」という名の傷を。トルストイの「アンナ・カレーニナ」の冒頭の有名な言葉「幸福な家庭はいつも同じだが、不幸な家庭はそれぞれに違っている」というけれど、子供に先立たれた人たちの不幸はみな同じである。私はその仲間入りをしたのだ。私はこれからの人生、もう心から笑うことはないだろう。

本当にあなたはいつも前向きに生きていた。

大学は英文科でESSのクラブに入り、「通訳ガイド」の国家資格を得た。だからイギリス国籍のステイプ・ロスと結婚して渡米することになった時も私は心から祝福した。そのとき私はすでに夫と死別して一人だったが自分の寂しさのためにあなたの未来を狭めてはいけないと思つたし、何よりも私もアメリカの空気

が吸いたかったのだ。



ヒュネルホーム

二人の子供をアメリカで出産した。私も立ち会ってアメリカと日本のお産の違いを目の当りにして、国よって風習がこんなにも違うのかと、貴重な経験をしたし、私の渡米も7、8回に及ぶ。長期にわたる滞在でアメリカの日常生活に接することができたのも本当

にあなたのおかげだと感謝をしている。

あなたとの幼い時からの、そして成人してからの思い出は夏雲のようにもくもくと湧いてくる。3月28日生まれのあなたは、小学校の時は目立たない子だったけれど、高校、大学と進むにつれ、能力が開花していった。一度だって親を困らせたり、怒らせたりしたことのない親孝行な娘だった。そのさまさまの出来事を折々のエッセイで書いてきた。ビビアンとアンジェラを連れて日本に来た時の「孫たちとの6週間」とか、発病して急遽アメリカに行ったときのことを書いた「カリフォルニアの空」などである。そして今度はあなたとの「永訣」を書く。いまあなたは最大の親不孝をした。わたしより先に逝ってしまったのだから。

今年に入ってほとんどの治療を抗がん剤に費やした。本当に、本当にあなたは頑張った。パソコン画面に現れるあなたはただの一度もマイナーな事を言わず、夏に私が手術をしたときも、私の身体のことを案じて、いろいろとアドバイスをしてくれた。痛みは全身に広がり、抗がん剤の副作用もあって、とても辛かったはずなのに、表情にだすこともなかった。並外れた意志

の持ち主ではないかと思っていた。おかげで、スカイプで話しても暗い雰囲気になることはなく、私は随分救われた。最後まであなたのさりげなきがなにより救いであつた。しかしそのとき、あなたはすでに主治医から残り少ない余命を宣告されていて、もうソファに座ることもできず、横になつたままで、それでも笑顔で私と対面していたのだと亡くなってから知らされた。母である私を悲しませないようにとの、精いつばいの心遣いだったと知り、私の心は引きちぎられそうになる。

私はあなたを失つたけれど、これまであなたが私に与えてくれた数々の喜びは悲しみと同じくらい大きい。あなたの存在は私に華やかな彩りをあたえてくれた。あなたはその役目を終えて、天の高みに帰つてしまつた。私はあなたからあたえられた喜びをしっかりと受け取つてこれからの長くはない人生を生きていく。心の奥底に深く。

あなたの7年にわたる長期の治癒をただ祈ることしかできなかった。ひたすらに私は祈つた。神社や仏閣など、手当たり次第に祈つた。しかし祈りは通じな

つた。当然だとおもう。「困つたときの神頼み」なのだ。キリスト教ではそれを「神の試練」だというらしいが、私は届かなかつた祈りに無力を感じている。奇跡は起きなかつたのだ。もう医学も神も信じない。どうしてあなたが55歳という若さでこんな不条理な目に合うのか。あれだけ未来に希望を持っていたのに。アメリカでまだまだやりたいことがたくさんあると張り切っていたのに。本人は自分が死んでしまったことに驚いているに違いない。「ちょっと待って、」と慌てているに違いない。ほらほら、戻つておいでと、手を差し伸べる。渾身の力をこめてあなたの手を手繰り寄せる。しかし私の腕はあまりに弱く、むなしく宙をさまよう。夜中、目覚めるとあなたの名を絶叫して戸外に走り出した衝動にかられる。苦しい、切ない、あなたに会いたい、しかしもう永久に会うことはかなわない。悲しみを癒すためには時の流れを待つしかないという。それを「日薬」というが、その貴重な薬はいつ頃効いてくれるのだろうか。「明けない夜はない」というが、私に朝の光がさすのはいつのことだろうか。



家族の写真

訃報をうけて、すぐに現地に飛んだ次女の奈見が一連のセレモニーを終えて帰国した。帰りの全日空機に搭乗する時、遺灰を持っていることを伝えたら、添乗員は混んでいるにもかかわらず隣の席を空けてくれたという。シートベルトまで付けてくれて。あなたの姿はみえないけれど、あなたはしっかりと、奈見に連れ

られて日本に帰ってきたと信じたい。

日本でいう通夜（ビューイング）では、故人と手を取り合ってお別れができたという。写真を写して持ち帰ったデスマスクは少し不平そうに唇を「への字」に曲げていた。やっぱり天への旅立ちには不満だったのだ。

ヒュネルホーム（葬儀場）では大勢の友人が駆けつけてくれ、明るい雰囲気で、湿りがちな日本の葬儀とはだいぶ違ったらしい。フュネラル（葬儀）は、故人の新しい世界（神のもと）への飛翔を祝福するという意味をもち、友人たちは、「エリはアメリカという土地に馴染み、本当によくやった」とほめたたえてくれたという。IT関係のエンジニアのステイブという、かけがえのない夫を持ち二人の子供に恵まれ、とても幸せな日を過ごしていたのだと改めて知り、湿っぽい雰囲気になるのではなく、明るく見送ったと話してくれた。エリを中心にしてとても仲のいい家族だったと出席者全員が賞賛してくれ、本当に心のこもった集いで、奈見も暖かい雰囲気にもまれてうれしかったと話してくれた。

子供たちは、次女のアンジェラも来年は大学生になり、二人とも家を離れてしまい、ステイブは一人残される。これから犬でも飼おうかなとつぶやいていた

というが、寂しいのはあなたの家族も同じ、お互い慰めあうにはあまりに遠い。高額医療で名高いアメリカで、7年間、最高の医療で支えてくれたステイプには感謝してもし尽くせない。スカイプで挨拶し「本当にありがとう」と深々と頭をさげた。

人間は必ず死ぬ存在であるならば、生は長短の問題ではなく、その内容によると教えられた、長くはない生涯だったかもしれないけれど、濃密に生きた、こんなお姉さまを誇りにおもうと奈見は涙をぬぐった。

すこしだけ分けていただいたあなたの遺灰は小さな美しい彩りの真鍮の壺に入って、我が家に安置された。「おかえりなさい」と声をかけた。

21年前の4月初め、あなたは日本を離れた。名残を惜しんで、ステイプと3人、満開の桜並木を歩き、数枚の写真を残した。今、久しぶりの日本は、初冬の寒さに震えているけれど、やがて出発した時と同じように春がやってきて桜が咲くことでしょう。そうしたらあなたの遺灰をもつて、あなたの郷里の桜並木を一緒に散歩しましょう。わたしの血を繋いだ二人の孫、そしてあなたの愛したステイプのいるアメリカにもう行くことはできないだろうけれど、いつか、いや近いうちにぜひ会いたい、ママの母国日本をぜひ案内し

たい、日本語を忘れないで。現在、イギリス、アメリカ、日本と3つの国籍を持つあなた達は20歳になったら、アメリカの国籍を選ぶことになって、アメリカ社会のなかで生活していくことになるだろうけれど、「エリ」という日本人の母の血が流れていることをいつも心に止めておいてほしい。



真鍮の壺

幸いなことに日本にもあまり年の違わない、いとこの姉弟がいます。やがて私は消えていくけれど、私の



在りし日のエリ・ロス

孫たち4人の未来はこれからです。どうぞ皆でこの絆を大事にしてください。

エリは漢字で「衣里」と書く。亡夫の命名である。

(2019年 12月)